

「第1回中之島4丁目再生医療国際拠点検討協議会」 会議要旨

- 1 日時 平成28年11月17日(木) 午後4時20分から午後5時15分
- 2 場所 大阪市役所 市会第5委員会室
- 3 出席者
 - ・大阪府政策企画部長 山口信彦(代理:企画室長 吉田真治)
 - ・ " 商工労働部長 津組 修(代理:成長産業振興室ライフサイエンス産業課長 池田純子)
 - ・大阪市経済戦略局長 井上雅之(代理:イノベーション担当部長 高田滋美)
 - ・ " 都市計画局長 川田 均
 - ・大阪商工会議所常務理事・事務局長 児玉達樹
 - ・一般社団法人関西経済同友会常任幹事・事務局長 齊藤行巨(代理:会務執行部部長 金子秀一)
 - ・公益社団法人関西経済連合会専務理事 松村孝夫(代理:理事・事務局次長 阿部孝次)
 - (オブザーバー)
 - ・国立大学法人大阪大学 理事・副学長 吉川秀樹
- 4 議題
 - ・中之島4丁目再生医療国際拠点検討協議会の設置について
 - ・座長選任
 - ・今後の進め方について

5 議事要旨

議題1 協議会の設置について

異議なく承認

議題2 座長選任

大阪商工会議所の児玉常務理事・事務局長より、大阪市の川田都市計画局長にとの提案
異議なく承認

座長あいさつ

川田)本協議会で議論させていただきます再生医療国際拠点。これは8月に大阪大学の西尾総長から大阪市長、知事に対して大阪大学の中之島アゴラ構想の中の一環として大阪府、市がこういう再生医療拠点を創るのであれば、大阪大学としても協力したいというお話もありまして、今回、大

阪府、市で旗振りをさせていただいて再生医療の国際拠点を中之島に創っていきたいということで、この検討協議会を設けさせていただきました。

また、今年の9月には、経済3団体と大阪府、市のトップで構成しております意見交換会、いわゆる5者懇の中でも、経済界の各界の皆さま方から国際的に競争力を持った再生医療の拠点を大阪に創るべきだと、それも国家的なプロジェクトとしてできればそれが望ましいというお話もありまして、それを受けて市長、知事が我々にそういう拠点を創っていくように検討を進めろということでご指示をいただきました。

そういう経過がありまして我々としても今、関西で再生医療に関しては大阪大学を中心に、神戸の方では理化学研究所、京都の方では京都大学、非常に強力なパワーを持った研究機関もございまして、企業もこの分野に関する集積もございまして。非常に熱い期待も受けておりますので、その実現に向けて具体的な議論をさせていただければと思っております。

この大阪の中之島の地が再生医療の国際拠点になれば、大阪・関西ひいては日本の再生医療の発展に繋がっていくと確信をしておりますので、今後、皆さま方に忌憚ないご意見をいただきながら、この検討を取りまとめていきたいと考えておりますので、ご協力よろしく申し上げます。

議題3 今後の進め方について

川田)「中之島のまちづくり」については、アゴラ構想の協議会の中で説明のため、割愛。

「大阪府のライフサイエンスの取組みについて」大阪府の池田課長より、説明。

池田)【資料3により説明】

最後に、大阪・関西がもつポテンシャルを活かし、ここ中之島4丁目において、再生医療の国際拠点の形成に産学官の力を結集して取り組むことにより、将来的に大きな経済効果が期待される市場において、大阪・関西がイニシアチブを発揮できるものと確信しています。

ぜひともスピード感を持って進めることが重要です。

川田)スピード感を持って進めることが大事だという話がありました。

諸外国に比べて大阪・関西は優位性がある。出来るだけのことをやっていくのは非常に大事。そういう意味でもスピード感を持ちながら進めていきたいです。

川田)参考資料1「医の知の杜」は、8月24日に大阪大学から提案されたものです。望ましいあり方を提案されたと思っており、再生医療に関連した中身も含めた先端医療について、この地の立地特性も活かしながら拠点を創っていくべきだということで、この協議会を設けさせていただきました。これも少し参考にしながら、議論を深めていく必要があると思っております。

大阪大学の中での再生医療を中心にした取組みと中之島4丁目において望まれるものも含めて教えていただければ。

吉川) 大阪大学の再生医療は、基礎研究から臨床試験、薬事認可を取ったものまであり、わが国でも進んでいます。その代表は、「心筋シート」。規制緩和の第 1 例目として薬事認可を得ています。また、角膜の再生、軟骨の再生といった分野でもトップを走っています。

ただ、脊髄の再生や肝臓の再生、膵臓の再生は、大阪大学ではまだ進んでおらず、これは国として進めていく必要があると思っています。

したがって、中之島に大阪府、大阪市が再生医療の国際拠点を誘致していただければ、ぜひ大阪大学としても、得意な再生医療の領域で協力したいと考えています。

川田) 大阪大学のキャンパス内でなく、なぜ中之島なのか、また、何をするのが一番いいのか、その辺を教えていただけたら。

吉川) この中之島の利点というのは、京都大学、大阪大学、理化学研究所など再生医療に強い施設が関西に集まっているというのが一つ。

また、再生医療を行うには、産業界との連携が重要であり、例えば、細胞を運搬するなど、様々な企業、産業界との連携が必要なので、企業が活発な関西というのは利点があります。

さらに、国際再生医療拠点としては、アクセスの面でも、利点があると考えています。

川田) 大阪商工会議所は、医療に関してかなり長い間、取組みをされています。再生医療に絞り込んだ取組みというのは、まだこれからのことと聞いていますが、そこも含めて再生医療国際拠点を中之島に創ることとした場合、大阪商工会議所として期待することや、自分たちが関わっていいことをお話いただきたいです。

児玉) 大阪商工会議所では、今まで医療機器や創薬の分野で産学連携を推進するプラットフォームを創り、運営してきました。また、大阪府らと一緒に彩都に医療拠点を創るという取組みも行ってきました。

創薬の方では、参考資料 2 の 5 ページの DSANJ のところで参加企業は外資を含む大手が 33 社入っており、提案機関は全国の大学、研究機関が 90 機関登録されています。我々はすでに非常に幅広い産学のマッチングのプラットフォームを持っています。

医療機器の方では、MDF のところで参加企業が 173 社、大学、研究機関が 110 機関参加されており、全国的に運営する仕組みを持っています。そういう中で実際に DSANJ の中からは、ピオニエという製薬会社からカーブアウトベンチャーを創出しており、MDF からは、24 件のアウトプットも出てきています。

こういった非常に成果を産んでいる取組みの中で、最近、先ほど大阪府が地域創造ファンドでも中小企業が再生医療に関連する案件が出てくると言っていました、医療機器でも周辺機材などで、ぼつぼつ出てきています。

また、京都、神戸の会議所とライフサイエンス、創薬や医療機器開発のプラットフォームを連

携しながら行っており、9月に開いた第4回の会合には、地元自治体も参加されました。これも一つのプラットフォームだとすると、この再生医療の分野でも、産学連携を行っていく時に産業応用していくための創薬の出口とか、医療機器の出口というプラットフォームも用意できます。また、京阪神が一体となって行っていく場も用意できると思っています。

こういう中で、我々の事業の中でもこの分野に関して関心を持っている企業も増えてきているので、様々な側面から再生医療について中之島に拠点を整備され、国のナショナルプロジェクトとして創っていただき、企業との産学連携を進められる環境ができればと考えています。そういったこともあり、9月1日の五者懇で尾崎会頭が大阪府、大阪市に誘致をしていきたいと思いますと呼びかけさせていただいた次第です。

川田) 我々自身も覚悟していく必要がありますが、やはり、こういう拠点を創っていこうとすると、関西、大阪の地元の行政を含めた産学官の汗かき、あるいは本当にやり抜く意志と力のようなものを結束して持たないと、なかなか国も振り向いてくれないということもあると思うので、まずは足元をきちっと固めてやりたいと思っています。

児玉) 足元を固めるという意味で、我々の今まで取り組んできたものは、非常に地道な取組みであり、先ほど言った3つのプラットフォームは、国の特区でもアピールできる成果ではないかと思うので、上手くお使いいただければと思っています。

川田) 関西経済連合会の阿部様いかがですか？

阿部) 関西経済連合会として、再生医療について明確な考え方がある訳ではないですが、アゴラ構想と比べて、こちらは構想そのものがない。今、座長からも国に振り向いてもらうためと言われたが、たたき台みたいなものを早急に作っていく必要があると思います。また、再生医療に関しても、いろいろなところで様々な取組がなされていると思いますが、その中で、今後、中之島で何をやっていくのか、どういう特徴を持たせるのかということが一番のポイントではないかと考えています。

当会の委員会で昨日、専門家の方に集ってもらい議論しましたが、やはり、ご意見として最も多いのは、この中之島にどんな特徴を持たせるのかということでした。また、単に研究開発だけではなく、レギュレーション作りを合わせて並行的に進めていくような場にしていくべきではないか。当然のことながら規制緩和についても、特区制度のフル活用などを前提に考えていくべきだなどといった話があったところです。今後、関連委員会等で、この会議で提案できるような内容を勉強していきたいと思っていますが、まず、このたたき台であるとか検討を早めをお願いしたいです。

川田) 8月の提案を受けて、それを我々なりに大阪・関西版としてどうしていくか、その議論を並行

して各団体で煮詰めていけたらと思っています。

関西経済同友会の方は、医療都市「関西」委員会という委員会を作って議論が始まっているとお聞きしているので、もし、その一端も含めてお話していただければ。

金子) 関西経済同友会では、5月に事業計画として医療都市「関西」委員会(委員長: サラヤ株式会社 更家社長)を立ち上げ、今、いかにして関西が世界に冠たる医療都市になるかというテーマで研究、検討、委員会活動をしています。最終的に提言として取りまとめる予定ですが、まだ途上にある。問題意識としては、関西には医療に関わる企業、団体や人材が豊富に存在し、再生医療をはじめ様々な研究が成果を上げており、また、関西圏は2014年に国家戦略特区に指定され医療に関する特例が認められています。このように関西には、世界に冠たる医療都市になりうる素地がありますが、いまだ産業化をはじめとして経済への波及は十分ではない状況です。

そこで、イノベーションの創出に向けて、従来型の研究スタイルをとる拠点ではなく、多くの人々がクロスオーバーするイノベーションハブを作って、それを拠点に産業化を図ることが効果的ではないかと考えています。大阪市の一等地にある開発候補地、中之島4丁目、そしてうめきたは、今後、医療と健康をテーマに人々がクロスオーバーし、イノベーションを創出するハブとして開発されることが期待されています。当委員会では、中之島4丁目には再生医療など医療分野での新産業とサービスを創出するイノベーションハブを作り、うめきたは主にライフデザインイノベーションによる新産業創出や人材育成を担うべきであり、それぞれに機能を分担し連携することが肝要ではないかと考えています。

こうした問題意識のもとに中之島4丁目において、国内外の関係者がクロスオーバーする方法、基礎研究から産業化まで一気通貫した仕組みづくり、再生医療等に関する国際的な先端医療開発拠点の形成、人材育成、近隣地域との連携等の観点から提言作成に向けて活動をしているところです。また、できれば、この協議会の議論にも提供し、活用していただければ幸いです。

川田) 今、経済3団体からのお話を聞いて、吉川先生から、コメントをいただきたいです。

私からは、特に再生医療の拠点を中之島に創るとした時に、実際に施設や具体のモノになると、今、何が不足していて、これから中之島でどのようにカタチ作りをしていかなければならないのか、もしヒントがあれば。

吉川) 再生医療の拠点ということで、診療、治療する場として病院が必要。中之島アゴラ構想にはこれが入っていないので、別の医療機関を誘致しないことには再生医療というのはスタートできません。もし、大阪府、大阪市で国の医療機関の誘致が成功すれば、それに関連する標準化やレギュラトリーサイエンスという面での人材育成は、このアゴラ構想の中で連携して行っていきます。

川田) 日本で今まで欠けていて、他になく、中之島で備えないといけない設備や施設はありますか？

吉川) 今の大阪大学医学部附属病院でも臨床試験実施できているので、特にありません。

児玉) 病院というのは、全診療科目を備えたいいわゆる総合病院、あらゆる事態が起こっても対応できるような病院がいるということでしょうか？

吉川) すべての診療科を備える必要はありません。再生医療に特化した診療科があれば対応はできます。全身的な管理ができる麻酔科や施設は必須。

川田) 先ほどのお話で言うと、今、大阪大学で再生医療を行っているのと違った設備や施設はいらない、同じものが2個あればいいということでしょうか？

そうすると中之島の地の差別化や特徴というか、中之島の拠点はこれという売りがあって、土地の立地場所を含めた特徴づけというのは何を前に出していくのでしょうか？

吉川) 先ほど申し上げたとおり、再生医療には産業界との連携が必要です。それが関西は強い。

また、再生医療のメッカである京都大学や理化学研究所と大阪大学も含めて連携できます。さらに、アジアの患者を呼び込んだり、国際拠点として便利であるということが挙げられます。

川田) そういう受け皿となるような機能であったり、機能を収容できる施設を、少し特徴を出して整理していくという考え方ということ。

大阪府池田様はどのようにお考えでしょうか？

池田) 素人ながらではありますが、再生拠点といっても、阪大医学部、あるいは阪大病院でしかできないことがあるはずなので、むしろ都心である、この中之島であるからこそ世界に開かれた国際的な拠点到ふさわしいものとして、先ほどのアゴラ構想にもあった社会、企業との連携、実用化や産業化を明確に打ち出すような拠点のイメージと思っています。キャンパスの中であれば、大学側の研究というのが主になるが、こちらの方は企業の方が主で、どちらかといえばビジネスに近いところのイメージ。

そういうイメージを持った上で、機能を検討していかないと、棲み分けや設備はどうかというような答えの難しいことになると思います。設備を見れば重複をするものがあつたとしても、目的が学内と学外では異なってくるべきであるし、だからこそ、産学官というところをもっと、むしろイメージ的には民あるいは産が前に出るような拠点のイメージと個人的には思っています。

川田) はい、分かりました。

阿部) この協議会の名称は国際拠点ということで、国際拠点を創るという意味では、川崎にもかなり集積があると聞いていますが、国際拠点としての強みみたいなものが本当に中之島で持てるのか、

また、吉川先生のお話にもあった産学連携。その2つの軸で何か特徴的な拠点ができるのかどうかが大事だと思います。

川田) 確かに企業に近いというところで、都心で実施する値打ちがあるので、みなさんのお話を受けながら、いわゆる医療の部分の産学連携でどこまで特徴出しができるか、優位性を保てるかということを少し念頭に置きながら議論を深めていけるのではないかと感じました。

児玉) 先ほどプラットフォームの例を紹介させていただきましたが、これがそのまま再生医療につながるかは別として、現時点では、全国的にも医療機器や創薬の中では成果を産んでいるプラットフォームなので、産学連携のところでこれを上手く変形して再生医療にも役立つようなプラットフォームにしていける可能性があると思います。大阪だけでなく全国をカバーしたプラットフォームがあるということをご紹介させていただきました。

川田) 今日は皮切りでこういう議論をさせていただき、大阪・関西が中之島の特徴づけ、企業との連携、あるいは国際というキーワードの中でどう考えていくか、そういう部分でこれから煮詰めていきたいです。また、再生医療という拠点の協議会なので、次回、できれば日本再生医療学会から専門家の意見をお聞きし、いわゆる研究側からみてどういうものが必要になってくるのか、企業側から見てどういう風に関わっていけるか、その両方の観点から議論ができればと思っているので、経済界の皆さまにも今日の議論を持ち帰っていただき、また次回にお話しいただければと思っています。

では、次に進め方を事務局の方から説明をお願いします。

事務局)【資料4により説明】

色々のご議論いただきましたが、たたき台等の必要性、あるいは専門家のご意見を伺ってはとのことですので、次回以降のこの場の持ち方について、またご相談をさせていただきたいです。28年度については、先ほどの中之島アゴラ構想の進め方とほぼ同時並行になります。今年度中に基本方針(案)という形でとりまとめ、来年度の基本計画の策定に向けての取組みをさせていただけたらと思っています。また、具体的に専門家の先生方のご意見をいただく場ということでしたので、それも含めて事務局で調整をさせていただきたいです。

阿部) かなり専門的な話なので、例えば関経連の会員の中から企業の方が、この会議には出ることはいかないのでしょうか？

川田) 必要な方は呼べるようになっています。関経連の中から推薦をお願いしてもよいでしょうか。

阿部) 承知しました。

川田) それでは、時間となりましたので、第1回目はお開きとさせていただきます。ありがとうございました。

事務局) これをもちまして、本日の議題を終了させていただきます。

次回の日程については、12月頃を予定していますので、あらためてご連絡させていただきます。
皆さま、本日は誠にありがとうございました。